
幸福の手紙

殺狂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸福の手紙

【Nコード】

N4620BA

【作者名】

殺狂

【あらすじ】

手紙の宛て先に1から7までの数字を漢字で書いて送ると、願いが叶うらしい……。そんな噂話からの出来事。

第1話：思い

私が先輩のことを好きだと気づいたのは2年生になったとき。

内気なくせに生意気な私は、あんまり友達がいなかった。というか、つくれなかった。

大体の人は私と友達になっても、私の悪口を言う。私の性格上からなのに、私はそれが許せなくて、何回も何回も『絶交』というものをしていた。

『絶交』をするときの友達は、決まって

「ああ、そう」

と言って『絶交』する。「嫌だ」とか「分かった」とかじゃない。ただ単に「そう」。

それが「もとかからアンタのこと嫌いだし」っていう顔だったから、余計腹が立って、泣きたくなった。

だから・・・私は友達をつくらない。

あのときの思いをするのは辛いから。怖いから。

けれど、先輩は私に積極的に話しかけてくれて、何度も私と話してくれた。

5回目の時――――先輩が笑ったのを見て、胸が締め付けられるように痛くなって、顔が赤くなるのが分かって・・・それが『恋』なんだなって気づいた。

友達には相談したけれど、答えは同じ『恋』。

「やったねー！！！！！後は告白だよー！！！！！！！」

って嬉しがられもしたし、応援されたりもした。

それは私自身も嬉しかった。友達的笑顔が何よりも嬉しかった。

けれど————告白だけはどうしてもできない。

内気だから・・・手紙を書く時点で恥ずかしくて放り投げてしまっている。

昨日はやっとの思いで書いたけれど、どうにも渡せない。

先輩の周りにはいつも人がいて、私は入れないし、一人だと余計に恥ずかしくなる。

そうこうすること一ヶ月くらいたって、もう諦めようかと思ったときに、こんな噂を聞いた。

『手紙の宛て先に一二三四五六七と漢字で書き、ポストに入れると、願いが叶う』

もう、これしかないと思った。

話をしていた子は『迷信』と決め付けていたが、迷信でもいい。もうこの手しかない。

宛て先に書き、ポストに入れる。

どうか神様・・・私の願いが叶いますように・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4620ba/>

幸福の手紙

2012年1月12日18時01分発行